

## 第2編 基本構想案

### はじめに～基本構想とは～

川場村のむらづくりにおける基本的な理念を明らかにし、村の将来像と基本目標を掲げるとともに、その実現に向けた基本施策の方向性などを示すものです。

なお、令和7年度(2025年度)から令和16年度(2034年度)までの10年間を計画期間とします。

## 第1章 むらづくりの方針

### 1. 基本理念

川場村は、武尊山麓の豊かな自然の中で、先人達の不断努力によって育まれた田園風景を守り、その恩恵を「農業＋観光」の施策に活かし、付加価値のある地場産品を生み出す活力のある村として発展してきました。先人達から受け継いだ貴重な財産を礎とし、村全体のブランド力を高めるとともに、これからも村民が主役となり、誇りと愛着を持ってこの村に住み続けることができるよう、むらづくりを進めていきます。また、時代や環境の大きな変化にも柔軟に対応し、村民一人ひとりが連携協力して地域課題の解決に取り組み、つながりを大切にした持続可能なむらづくりを推進していきます。すべての村民が心身共に健やかで心豊かに暮らし、経済的にも安定した中で、安心して生み・育て・働ける環境整備を図り、『全村民幸福の村』を実現します。

### 2. 将来像

本村の田園風景は、田畑の中に集落が点在し、それらを取り巻く森林により構成されています。これらの風景は、先人達の不断努力により育まれ、今日まで維持管理されたもので、農村の原風景として、また、優れた里地里山として、高い評価を得ています。

また、田園景観の保全や地場産業の発展等に注力し、それらを資源として村全体のブランド力を高め、活性化に努めてきました。

一方、人口減少と少子高齢化の波を避けることができず、子育て支援や移住定住の施策に注力しているものの人口減少が続いています。今後はそれらの施策の拡充に努めるとともに、暮らしやすい魅力的な村であることを積極的に発信し、この村の暮らしを求める人が増加するような施策を展開していきます。

また、昭和56年から継続している東京都世田谷区との交流は、区民と村民の信頼と友情を重ねたものへと発展し、全国的に高い評価を受けております。今後も、多岐にわたる交流事業を展開し、更なる交流の活発化を図ります。本村が今日まで推進してきている「農業＋観光」の施策をさらに発展させつつ、「農業＋観光＋環境」といった川場村における環境の改善、整備にも注力し、循環型社会を礎とした「田園理想郷」を創ろうとするものです。

### 3. 基本目標

- 魅力あふれる 新時代を見据えた むら（住民・行政・交流）
- 豊かな自然と 共生する むら（環境・生活）
- 地域特性を活かし うるおいと活力のある むら（農林業・商工観光）
- 人と人との支え合い 誰もが幸せを感じる むら（健康・福祉）
- 多様性を認めあい 人を育て文化が磨かれる むら（教育・文化）

## 第2章 施策の大綱

本村の将来像「田園理想郷」実現のため、次の施策を展開していきます。

### 1. 魅力あふれる 新時代を見据えた むら（住民・行政・交流）

#### 【基本施策】

- ① 安定した行財政運営と広報広聴
- ② デジタル技術活用の推進
- ③ 広域行政の推進
- ④ 防災と交通安全の推進
- ⑤ 民意の反映
- ⑥ 地域力の向上
- ⑦ 人口減少への歯止め
- ⑧ 世田谷区との交流事業

本村は、少子高齢化時代であっても、市町村合併せず自主自立のむらづくりを進めています。むらづくりの拠点「kawabaBASE」は、防災機能を備えた庁舎、学びや交流の場などを整備し、各施設に再生可能エネルギーを導入し、脱炭素社会の実現に取り組みます。

行財政運営では、適切な組織編成とDX推進等による事務効率を進め、住民サービスの向上を図るとともに、厳しい財政状況を乗り切るため、各事業の精査や適切な公共施設維持管理に努め、自主財源の向上を目指すとともに、費用対効果に考慮した広域連携に取り組みます。

世田谷区との縁組協定に基づき、交流の継続発展と相互協力による地域活動を推進し、交流人口の拡大を図ります。本村は災害が少なく、住みやすい村であることを効果的に発信し、UIJ ターン者の受け入れ態勢を整えていきます。少子高齢化、人口減少が進む中、自助、共助、公助の理念で行政と住民の役割分担を明確にし、持続可能な地域社会の実現を目指します。

### 2. 豊かな自然と 共生するむら（環境・生活）

#### 【基本施策】

- ① 人と自然の共生の推進
- ② カーボンニュートラルの実現に向けた推進
- ③ 生活基盤の保全整備
- ④ 生活環境の保全と循環型社会形成の推進

村の田園風景は、村景観計画に沿って建物や看板などが自然と調和するよう進められていま

す。その美しい景観を訪れる人々や国内外に発信することが、村のブランド力の向上に繋がり、都市部の人々と協働でこの景観を守り育てる活動が、景観意識の高揚と交流人口の増加を生み出します。さらに、この活動に子ども世代の参加を促進させ、森林保全の重要性を幅広い世代への理解に繋がります。

また、河川的环境美化や里山整備などの維持管理活動を通じて、鳥獣被害とヤマビル被害の縮減や自然と共生する地域づくりを進めます。間伐材をバイオマス発電に活用し、エネルギーの循環を促進するとともに、川場産木材の活用を進め、伐採部分には景観や土砂災害を考慮した樹木を植林します。

本村では 2050 年の脱炭素社会を目指し、木質バイオマス発電、小水力発電、太陽光発電を推進しています。今後も地域特性に応じた脱炭素の取り組みを強化し、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーを推進し、温室効果ガスの削減を目指します。

また、道路網と上下水道の整備を継続し、安全で快適な生活環境を提供します。道路施設の点検修繕による長寿命化を図るとともに、上下水道の老朽化対策等を計画的に進め、安心安全な村民生活を支えます。ごみの収集方法等の見直しを行い、環境にやさしい消費行動を促進します。資源ごみの分別を徹底し、ごみの減量化・資源化を推進します。

### 3. 地域特性を活かし うるおいと活力のある むら(農林業・商工観光)

#### 【基本施策】

- ① 優良農産物の生産と販売戦略
- ② 10年後を見据えた強い農業
- ③ 持続可能な観光業
- ④ 林業・林産業の推進
- ⑤ 産業の育成と振興

本村は、農産物の品質向上とブランド化を推進しています。消費者の安全安心志向や気候変動に対応するため、農業従事者の意識と技術の向上に取り組めます。高齢化による後継者不足対策として若者の農業参入支援やマッチングに取り組み、耕作放棄地の活用を進め、地域経済の活性化と持続可能な農業の実現に寄与します。

観光においては、「道の駅川場田園プラザ」の観光客を村全体に広げるため、観光ルートの整備やパッケージツアーの開発が求められています。地域の歴史や文化、自然を巡るツアーを企画し、観光客に多様な体験を提供します。

また、木材コンビナート事業で村内の山林整備を進め、森林経営管理制度を推進して災害や獣害に強い森林づくりを目指します。植林活動や森林保全プロジェクトを実施し、環境教育を通じて次世代の森林保護意識を高めます。

大規模企業の誘致には土地の少なさが課題ですが、中学校跡地等の公共施設を活用して貸し

オフィスや起業のための事務所にするなどの方法を模索するとともに、商工業の育成や支援を継続し、地域経済を活性化させます。

#### 4. 人と人との支え合い 誰もが幸せを感じる むら（健康・福祉）

##### 【基本施策】

- ① 心身共に健やかな生活
- ② 地域で支え合う福祉事業の充実

村民が健やかで心豊かに生活するためには、健康づくりの推進が必要です。そのため、「川場村健康増進・食育推進計画」に基づき、自己啓発や健康管理を促進する施策を展開しています。特に、村民一人ひとりが「食生活・運動・生きがい」に関心を持ち、検診等の受診や治療の円滑化を図り、健康意識を高めることが求められます。高血圧や脳卒中が多い地域であるため、減塩や喫煙抑制の取り組みを進めています。命を守るゲートキーパーの養成なども進め、健康づくりの環境と体制を充実させます。

少子高齢化や核家族化、価値観やライフスタイルの多様化により、一人ひとりの福祉ニーズが多様化しています。地域の人々が支え合う仕組みを作り、安心して自立した生活ができるようにすることが求められます。住民参加型の移送サービスや地域福祉事業の実践が必要です。また、移住定住施策を強化し、人口減少に歯止めをかけるとともに、きめ細やかで手厚い子育て支援を実行し、「子どもを産み、育てるなら川場村」を目指します。

#### 5. 多様性を認めあい 人を育て文化が磨かれる むら（教育・文化）

##### 【基本施策】

- ① 教育の充実
- ② 文化の保存・継承

本村では、就学前の子どもに対して家庭の状況や子どもの個性に応じた教育・保育サービスを提供し、安心して子育てできる環境を整えています。乳幼児期に生きる力を養う教育を推進し、学校教育へのスムーズな移行を支援しています。

学校では、子どもたちが知識や技能、思考力、判断力、表現力をバランスよく育み、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、探究的・協働的な学びを重視しています。また、イングリッシュセミナーやイングリッシュキャンプ、ホームステイなどで英語教育を強化し、グローバルな人材の育成を目指しています。地域での学校活動へのボランティア参加も増加しており、今後も行政、学校、地域が一体となって事業を検討する必要があります。

学校給食では、地産地消を推進し、特に川場小学校及び川場中学校に在籍する第2子以降の給

食費が無償であり、家庭の負担を軽減しています。栄養バランスや味、彩りにこだわった給食を提供し続けることが求められます。

社会教育では、人権感覚の深化と広がりを図るためにワークショップやイベントを開催し、地域住民が多様な意見や価値観を共有し理解を深める場を提供しています。

郷土芸能や伝統工芸の保存・継承のため、若い世代への教育や普及活動を強化しています。新しい村誌により明らかになった文化財の適切な保存と継承を進める取り組みが求められています。